

相生デイサービス新聞

発行所
相生DS
44-4165



星の輝きも増して

涼に庭へ出ると湯上がりの体に風が心地よくあたります。いちばん星が夕闇のなかにひかりました。

夜がその色を濃くしていくたびに星の輝きも増してきました。

名句

桑の葉の照るに
堪へゆく帰省かな

水原秋桜子



緑の山々のなかを走る阿蘇パノラマライン。

ご存知ですか



能は室町時代に確立した舞台芸術。幻想的で悲劇的な内容が多い。無表情な能面は喜怒哀楽をあらわにしないため。

ふるさと風物詩

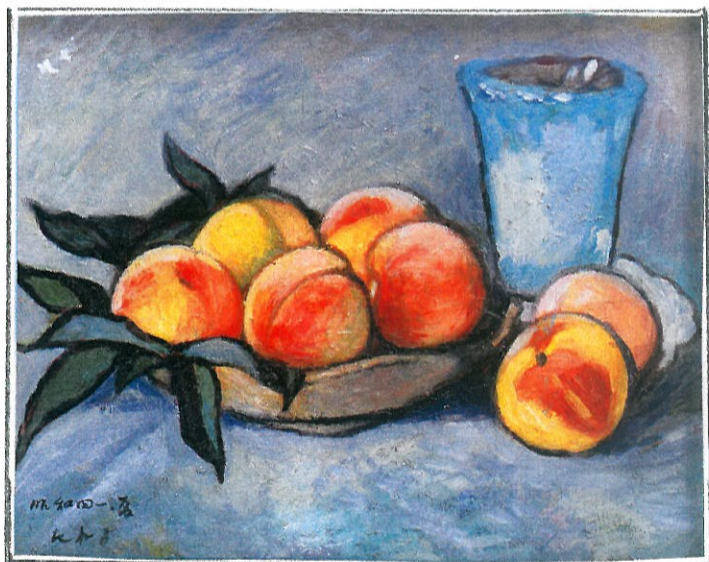


今年で第100回
1回目は今が111年前の明治36年7月7日。

思い出の名画



昭和32年 ぞた。情感あふれる映画



福田たね(桃)

— 今月の予定 —

- 4月 足エボランテア
 - 7月 傾聴ボランテア
 - 18月 習字
 - 20月 藤美会
 - 21月 よさこいホパイ
 - 26月 音楽(小林様)
- ※ 緑日週間
11日 5 16日

床屋さん
4月 21(木)
29(金)

大文字山の送り火
8月16日夜 大
の字が夜空に浮かび上がって、京都は秋になります。

「おーい、おーい」
子どもは投書箱に近づいて声を張りあげた。
「あなたを声を聞かせて下さい」
箱にはこう書かれていた。
「投書箱」が置いてあった。
商店街の入口に歩いていった。
父親が子どもと街を歩いていた。

天声珍語
「えい」
足で下駄を放った。
表か裏か。
自分で決められぬ優柔不断さ。
天の声を聞くことにした。
表なら海。
男鹿半島でも行ってみようか。
色白の秋田美人を相手に……
おもうだけでも心ときめく。
裏なら山。
妙高高原でも行ってみようか。
眼下には鏡のような野尻湖がひろがる。
歩き疲れた体を旅籠の湯にすそめて。
やはり心ときめく。
「ガサツ」下駄は枝にかかった。
表でも裏でもなく
非情な天の声を聞いた。
ススム